

スピーカーアキュライザーの導入(32)
ーアナログ対デジタル(16)ー

1. 始めに

前報(31)に引き続き、アナログ音源とデジタル音源の比較を行ってみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

その後、配信の方は、LAN iSilencer の導入(12)で報告しましたように LAN iSilencer の追加と、LAN ポート、USB ポート、HDMI ポートへのダミー端子の装着ならびに USB ケーブルへの NRF-005T 処理などを行っています。

試聴音源はバッハの管弦楽組曲に固定し、アナログ盤と STAGE+から選択します。
アナログ盤

ARCHIV SAPM 198-172-173 (日本グラモフォン)

J.S.バッハ 管弦楽組曲第1番・第2番・第3番・第4番 BWV1066-1069

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

STAGE+

J.S.バッハ：管弦楽組曲

オーレル・ニコレ, ミュンヘンバッハ管弦楽団, カール・リヒター

ヨハン・セバスティアン・バッハ 管弦楽組曲 第1番 ハ長調 BWV1066

第1曲: 序曲

第2曲: クーラント

第3曲: ガヴオット I,II

第4曲: フォルラーヌ

第5曲: メヌエット I, II

第6曲: ブレーレ I, II

第7曲: パスピエ I, II

ヨハン・セバスティアン・バッハ 管弦楽組曲 第2番 ロ短調 BWV1067

第1曲: 序曲 オーレル・ニコレ

第2曲: ロンドー オーレル・ニコレ

第3曲: サラバンド オーレル・ニコレ

第4曲: ブレーレ オーレル・ニコレ

第5曲: ポロネーズ オーレル・ニコレ

第 6 曲: メヌエット オーレル・ニコレ

第 7 曲: バディヌリ オーレル・ニコレ

ヨハン・セバスティアン・バッハ 管弦楽組曲 第 3 番 二長調 BWV1068

第 1 曲: 序曲

第 2 曲: エール

第 3 曲: ガヴォット I,II

第 4 曲: ブーレー

第 5 曲: ジーグ

ヨハン・セバスティアン・バッハ 管弦楽組曲 第 4 番 二長調 BWV1069

第 1 曲: 序曲

第 2 曲: ブーレー I, II

第 3 曲: ガヴォット

第 4 曲: メヌエット I, II

第 5 曲: 歓び

オーレル・ニコレ (フルート)

カール・リヒター (指揮、オルガン)

ミュンヘンバッハ管弦楽団



3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

収録曲から判断すると、アナログ盤と STAGE+は同じマスターのように思われます。

本アナログ盤は、よく聴いていたもので、盤質はよくありませんが、リヒター指揮
ミュンヘンバッハ管弦楽団も、組曲 2 番フルートのニコレも定評のあるところで

す。盤質は悪いもののリヒターの折り目正しく格調高い解釈の演奏、ニコレの優雅な演奏スタイルの技量は十分伝わってきます。

STAGE+の方は、盤質の状態に悩まされることなく、録音の古さは多少ありますが、クリアで切れの良い音でリヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団の演奏を聴くことができますし、組曲 2 番のニコレの優雅な演奏もデジタル臭い印象はありません。組曲 3 番のアリアもスクラッチノイズに悩まされることなく、滑らかな音で聴くことができます、

4. まとめ

音源の種類と再生ルートが異なる音源が、一様にスピーカーアキュライザー導入以降、音質が向上して様変わりしています。

STAGE+は、マスターからデジタル化されており、LAN iSilencer の追加その他の対策の効果で、アナログ盤の代替えとして十分存在意義があるものと言えます。

以上